

1 複合型公共施設整備のコンセプトと方向性

文化ホールや中央公民館、中央図書館を複合化することにより、個々の施設における機能を超えて、様々な文化活動が“つながり”“ひろがる”広場のような新しい文化空間として機能し、新たに文化活動が生まれるなど、本市の持続的な文化活動の発展に寄与する施設を目指し、施設整備のコンセプトを『みんなで創る“つながり”“ひろがる”文化の広場』とします。

コンセプト：みんなで創る“つながり”“ひろがる”文化の広場

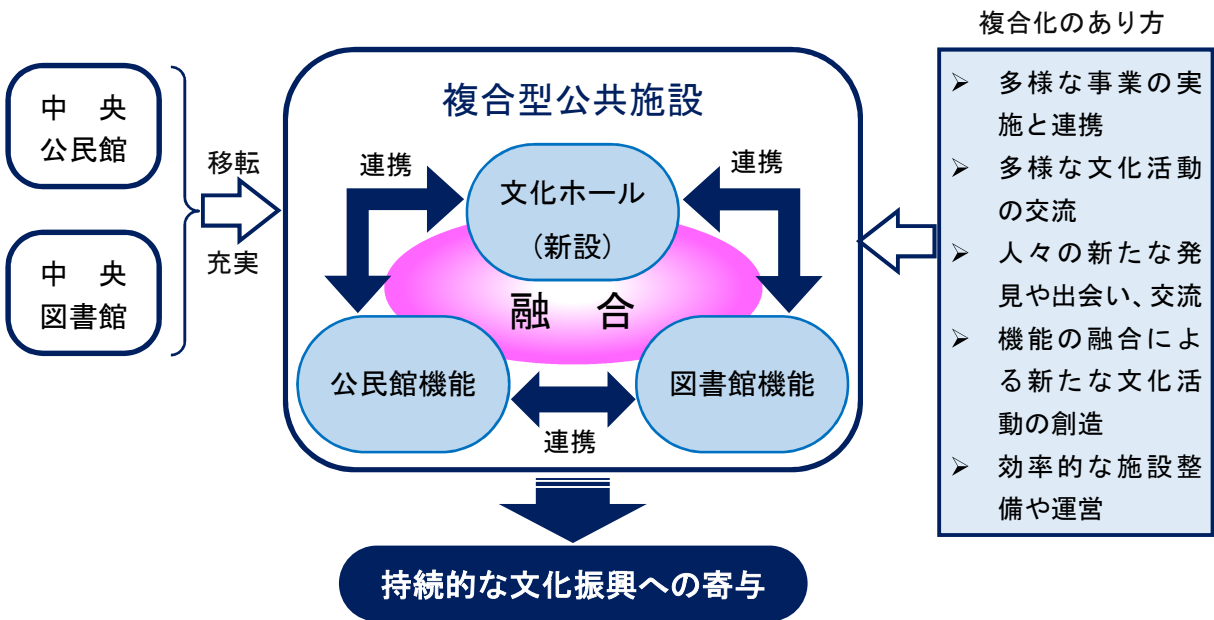
【整備の方向性】

- 誰でも文化を楽しむことができる「“市民”と“文化”をつなぐ施設」
- 日常的に文化を楽しむことができる「“暮らし”と“文化”をつなぐ施設」
- 文化でまちを彩る「“文化”が“まちづくり”へとひろがる施設」

2 施設の複合化及び連携の考え方

個々の文化機能の充実とともに、各機能の連携により多様な文化ニーズへ対応する施設とします。
また、各種の文化機能を集積することで訪れた人々の新たな発見や出会い、交流の場となるとともに、各機能が融合し、新たな文化活動の創造に資する施設として整備し、持続的な文化振興を図ります。

- 中央公民館と中央図書館の移転・再整備に伴う機能の充実
- 事業の連携や多様な文化活動の交流など、複合化のメリットを活かした施設運営
- 訪れた人々の新たな発見や出会い、交流と各機能の融合による新たな文化活動の創造
- 複合化による有効利用（諸室の共有化）と整備・運営に係るコスト削減



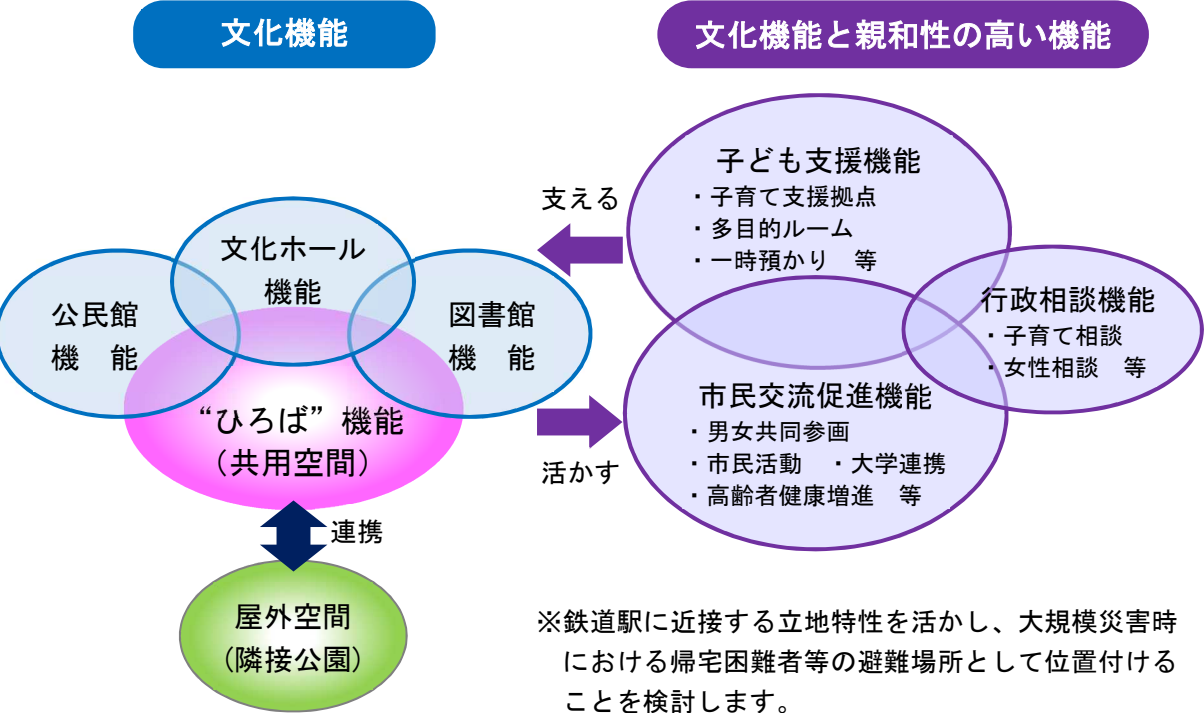
3 複合型公共施設の構成

文化ホールや公民館、図書館の各機能を強化するとともに、市民による文化活動の活性化や新たな文化活動の創造に向けて、共用空間に市民の集いや交流の場となる“ひろば”としての機能を位置付けるとともに、隣接する公園等の屋外空間と一体的な利活用を可能とし、まちの賑わいの創出につながる文化活動を可能とします。

また、「子ども支援機能」を設けることで子育て世代でも文化活動に参画しやすい環境づくりを行うとともに、「市民交流促進機能」を設けることで文化活動の市民活動やまちづくりへの展開を図ります。

さらに、「子ども支援機能」や「市民交流促進機能」の一部として「行政相談機能」を併設するとともに、鉄道駅に近接する立地特性から大規模災害時における帰宅困難者等の避難場所として位置付けることを検討します。

- 施設を訪れた市民がいつでも、集い、交流することで新たな文化活動が創造される「“ひろば”として機能する共用空間（ロビー等）」
 - 子ども支援機能の併設による「誰もが文化活動に参画しやすい環境づくり」
 - 市民交流促進機能の併設による「文化活動のまちづくりへの展開」
 - 子ども支援機能や市民交流促進機能に付随した「行政相談機能」の併設
 - 屋外空間（隣接公園）との一体的なイベント等による「まちの賑わいの創出」



4 施設の整備イメージ

文化ホールの整備イメージ ～多目的な利用への対応～

- 市民文化活動団体によるコンサートや発表会を主な利用と捉え、客席数は400～600席とします。また、車椅子席や乳幼児連れで鑑賞可能な客席を設けます。
- 多目的な利用に対応するため、舞台の大きさや照明、音響設備、可変式の反響板（音響反射板）等の設備の設置を検討します。
- 楽屋の設置とともに、表（客席）と裏（演者）の動線を分離し、機材の搬出入スペースや経路を確保します。
- 芸術作品の展示やダンス等の多目的な利用への対応を検討します。



スターツおおたかの森ホール(千葉県流山市)
客席数 506 席
1F 移動観覧席 280 席、可動席 58 席、車椅子席 4 席
2F 固定席 156 席、多目的室（親子席）4 席×2

公民館の整備イメージ ～多様な文化活動への対応～

- 市民の文化活動拠点として、市民の多様な文化活動に対応した施設とします。
- 会議室（研修室・集会室）は、規模の変更を可能とし、視聴覚資機材等の設備を設置します。
- 練習やリハーサル等とともに、小規模なコンサートや発表会等に対応する多目的室を設置します。



多目的室の利用イメージ

図書館の整備イメージ ～多様なニーズへの対応～

- くつろいで読書が可能なスペースや親子向け読書スペースなど多様な閲覧スペースを設置します。
- 自習やグループ学習、コワーキングといったニーズへの対応を行います。
- 職員の動線に配慮した閉架書庫と搬入・荷捌きスペースを設けます。



海南 nobinos (和歌山県海南市)
カフェと一体となった読書スペース

複合・共有スペースとしてのロビーの整備イメージ

～“憩いの場”としてのサードプレイスから“つながり”により文化活動が創造されるフォースプレイスとしての「ひろば」～

- 目的や機能をあえて設定しない新たな文化スペース（フリースペース）として位置付け、ジャンルに限定されない多彩な活動・事業ができるようにします。
- 公民館機能・図書館機能、文化ホール機能からの事業の「にじみ出し」の場にもなり、展示活動やコンサートが行われることにより、訪れた市民の新たな文化への出会いや発見の場となります。
- 外構や隣接する公園とつながることで、文化イベントとマルシェやフリーマーケットなどが一体となった賑わいの創出を目指します。



おにくる（大阪府茨木市）
クラフト作品の販売やワークショップ

5 建設予定地と想定される施設の規模

建設予定地：田辺北土地区画整理事業区域内
敷地面積：約 17,000 ㎡
延床面積：約 10,000 ㎡
階数：3 階建程度
※面積や階数は現時点での想定であり、今後、基本計画の策定過程において詳細な検討を進めていきます。



6 管理運営と事業手法

管理運営に関する考え方

- 文化ホールや公民館、図書館のそれぞれの専門的機能を発揮するとともに、施設間の連携を図った事業の実施など、文化機能の複合化の特色を発揮できる運営が必要です。
- 文化活動拠点として、市民利用はもちろんのこと市民が文化活動をはじめめるきっかけづくりなど市民の主体的な文化活動への取り組みを支援するコーディネーター的な人材の配置を検討します。
- 施設の管理運営にとどまらず、地域文化を支える体制や仕組みを整え、「文化の地産地消」や「施設のフォースプレイス化」に向けた施設運営のあり方を検討していきます。

事業手法

- 民間の資金調達や補助金の活用等、より財政負担の小さい手法を検討します。
- 個々の文化機能の専門性とともに各機能の連携を図った施設運営が大切であることから、今後、施設建設だけでなく、施設の管理運営も含めて、民間活力の導入を検討していきます。
- 民間活力を導入する場合は、民間事業者の創意工夫を施設運営に活かすため、独立採算型とサービス購入型を合わせたミックス型が望ましいと考えられます。
- 収益事業として自主事業の開催や貸館利用でのチケット販売、受講料等を徴収可能とすることが求められることから、社会教育法に規定する「公民館」の取扱いについても検討します。

7 スケジュール

	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度	令和9年度 2027年度	令和10年度 2028年度	令和11年度 2029年度	令和12年度 2030年度	令和13年度 2031年度
従来方式	入札 基本計画		入札 基本設計・実施設計		入札 建築工事		★ 竣工 指定管理者選定	
一括発注方式	入札 基本計画		事業者選定	基本設計・実施設計	建築工事		★ 竣工	
PFI方式		導入可能性調査	★ 実施方針公表	★ 事業者の決定				

※一般的なスケジュールであり、今後の詳細な検討や土地区画整理事業の進捗との整合を図る中で変更となることがあります。